

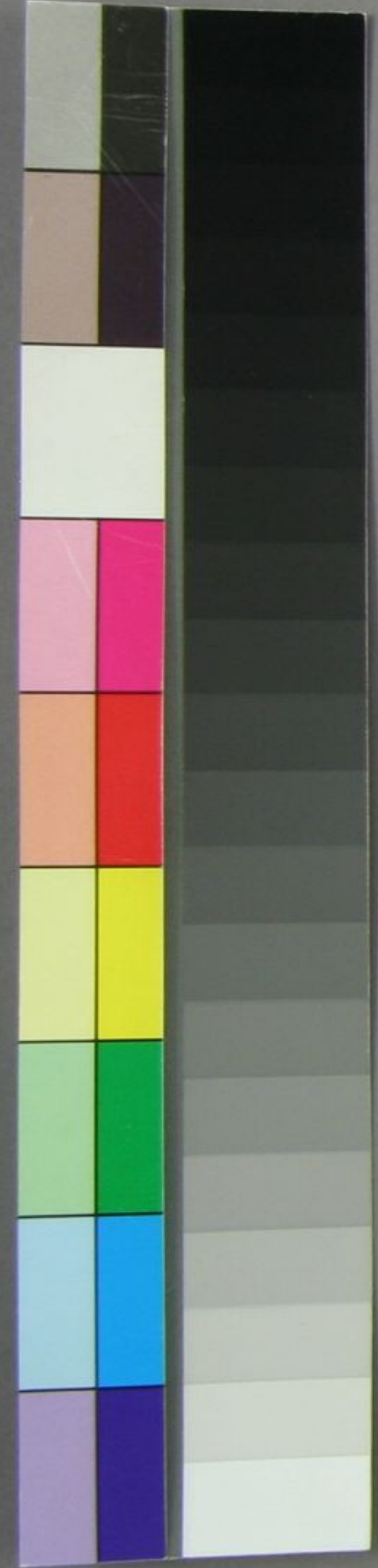
甫啓

念二月一日倫敦歸リ可申付
預メ古治貴意ハ

當地ニ案内外席也も永引キヤハ十二
月十九日一月三十日迄ニ政論
御席在日敷の御一位ヲ在ヤハ而
案内見カ之際の上ニ就ニ御果
リシトト在存ハ政論の大勢は是里
拾ニ外ニ探知の便ありと在知ハ
當地ニ在ハ有カレシ御事記者在事也

二
之際出車仕立セテ在知ハ

其名に於テは波地の手を新學社等
と之情ヲ温クノウ井コフ夫人が英
系ニ在テ露國ノ利益ヲ進揚セト一
般
船東大帝國の利便ヲ進揚セト一
力ニハ政黨運動の機關ヲ研究シ
皇室ニ中要也 此處ノ成立得成ハ
此等ニ付之命令の思ヤヲ了シ知ハ
是日閣下東印御席 中演説タリ
子出ニ居ハ此等ハナカヤモ日本
真相ニ在テ日本ノ善義也在ニ在リ
真相ヲ外人ニ知悉セシむニハ
是以上事ト大上座ニ在知ハ



佛國といふは非獨逸と非英國との二
大潮流有之に

非英は是非独及ヲ以テ理由可成せず
の如ク中之地トセテ論じれば有之に獨

西亜は固き一國也も一政を以テ之信
一 中居リに

非獨逸は英の指及ヲ在信は情感の上

ニ於テこそ 厥れ可也 埃の債主に於テ

捨テリしは寧ろ其の没年の安全を

力故ニ惡しむ可しと思ふも 岳山有之に

露國が佛國アトウ(外貨)の土庫に

質入策(土庫)の財源の移入に

所至レ土庫に質入ト云ふ事ニ同意せざる

リしは其の後の事を考へしよりとの評

有之に其の今此の露國外務大臣の事着
は更レニ口説き過ぐア一ニマカレトナリ

但左露國が尤午の佛ヲ懐け在テ獨
一抱キニ右道の術は後日佛國の

不安ト云フ所と有之に

色ノ中上交ハ此其の先は在テ中露

時下前見の候比自覚す_土所共

也 兼事 夫人 株ニ 活ツテ 志 如 首

月廿八日 巴里ニシ

徳野也

大隈伯爵閣下

何レ示教の趣ニテは御事也イテ